

第3回次世代交通ビジョンおきなわ策定本部幹事会 議事概要

- 1 日時：令和8年8月19日（水）11時00分～12時00分
- 2 場所：6階第2特別会議室
- 3 参加：幹事14名（うち4名代理出席）、事務局（交通戦略推進課）

・事務局（交通戦略推進課）から資料により説明後、各幹事から以下の質問があった。

【発言内容】●幹事、○事務局（交通戦略推進課）

- 中南部都市圏の広域構想や跡地利用計画など、他の計画との棲み分けはどうなっているか。また、ビジョンをどのように各計画に反映させる想定か。
- 跡地利用計画も策定に取り掛かっていることから連携して取り組みたい。また、交通関連の他の計画（沖縄県総合交通体系基本計画、沖縄県地域公共交通計画など）や市町村の計画とも連動して策定に取り組みたい。
- 「オープンハウス」という文言が少しわかりづらい。
- わかりやすい表現になるよう、今後資料作成に取り組みたい。
- 検討プロセスの中で、障がい者などの意見も反映されているか？
- 昨年度までに情報収集したものを取り込んでいるところ。
- 障害福祉課で、共生社会に関するアンケートを行い、その結果の取りまとめを行っているところであるが、障がい者等から公共交通等に対する意見も出ているところである。本ビジョンにおいても障がい者等からの意見も参考にしていきたい。
- 他部局でアンケート実施して交通に関連するものがあれば提供していきたい。
- バス事業者など、提供者側への意見聴取予定はあるのか。関係団体との意見交換などの予定はあるのか。
- バス事業者とは常時意見交換しているところ。地域公共交通協議会などで議論する予定としている。
- 中南部の交通渋滞の解消に関して、土木建築部においてはハシゴ道路などの取組を実施しているため、そのことがわかるような表現も追加してほしい。また、公共交通空白地域の定義が曖昧なため、明確化してほしい。
- 公共交通空白地域の定義は、基本的に市町村の判断となっており、明確な定義がなされていないところ。今後ビジョンの中で整理したい。道路ネットワークについても道路整備と連携して取り組みたい。
- まちづくりの視点で、市町村との連携は取れているという認識でよいか。
- 今後、市町村とも意見交換しながら連携し取り組んでいく。
- 交通戦略について、ビジョンを踏まえて整理していく予定か。

○今年度から来年度にかけて整理する予定。

●中長期的な取組、短期的な取組が必要との前提で、例えば、平和祈念資料館へのシャトルバスなどの取組は知事公室対応となるのか、交通部局での対応となるのか。また、交通のあり方のネットワークイメージについては、交通モードが決まっているのか。

○運転手のリソース不足があるものの、交通結節点の整備をしっかりと進めていくことで、シャトルバスを運行しやすくなる環境は作れるのではないかと。交通モードについては、ビジョンで示せるか今後検討していきたい。

●児童生徒の通学の観点から、北部の交通のあり方で、送迎に頼らず自分で移動できるという視点はありがたい。離島においても集落に住む児童生徒がいることから、自転車利用などを含め、今後丁寧に議論していけたらと思う。

○空白地域の解消については、デマンドバス、スクールバスなど地域資源のフル活用により整理していきたい。

●新たな部局立ち上げに関して、複数部局に跨る公共交通施策について整理する想定はあるか。

○現時点ではまだ議論していないが、各部局の定数との関わりもあることから、今後議論していくこととなると思う。

●観光客の意見も取り込んでいただいてありがたい。今後、観光業界とも意見交換しながら進めていきたい。

○観光二次交通については、企画部に移管されていることからしっかり取り組んでいきたい。